演習Ⅱ

科目ナンバリング　SEM-302
必修　　2単位

徳山　英邦

1. 授業の概要（ねらい）

企業は、ヒト、モノ、カネおよび情報・技術を経営資源として活動しています。そしてその活動の成果を財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書、株主資本等変動計算書）という報告書で、外部の利害関係者に伝達しています。この科目では、財務諸表の活用方法について学修します。財務諸表を活用する代表的手法が、比較分析です。ある企業と別の企業を比較したり（企業間比較）、ある企業の現在と過去を比較して（期間比較）、その良し悪しを判断します。

演習Ⅱでは、ビジネスゲーム演習によって、会計学の学びの意義とグループ活動の意義に出会うことと、企業分析のための基礎を修得することをねらいとします。演習Ⅰの学修テーマを継続し、演習Ⅱでは、受講者自らが選定した企業の分析、財務諸表分析を各自で行い、その結果を報告しあって学修を深めていきます。

2. 授業の到達目標

経済学部の学びの中の本科目の役割として、以下の4つを当初の成果目標とします。
1.コミュニケーションの重要性を理解し、自分の意見を提示しつつ他者と議論できる。
2.問題解決に必要なデータや情報を収集し、他者に理解できるように整理して提示できる。
3.必要なデータや情報を作成し、他者に理解できるように口頭やスライド等を用いて提示できる。
4.メンバーに指示を出したり協力しながら、課題の解決案を作成できる。

上記の学びを成果として、以下の3つを到達目標とします。
1.企業経営に関する基礎的理論を理解し、説明できる。
2.企業経営の場で生起する実践的課題に対処できる専門的な知識・スキルと態度を有する。
3.企業経営に要求されるコミュニケーション力、リーダーシップ力、倫理観を有する。

3. 成績評価の方法および基準

授業中に行う財務諸表分析の作業状況・参加姿勢（75%）、レポート等（25%）を目安に、総合的に行います。演習科目は学生同士が学び合う側面が重要です。そのため、毎回の出席を前提として、ディスカッション等への参加姿勢が主要な評価要素です。

4. 教科書・参考文献

教科書
新田忠誓監修　『全商会計実務検定試験　財務諸表分析』（十訂版）　実教出版
参考文献
森久／関利恵子／長野史麻／徳山英邦／蒋飛鴻／平屋 伸洋　『財務分析からの会計学』（第3版）　森山書店
近田典行、他著　『基本から学ぶ会計学』　中央経済社

5. 準備学修の内容

「学びの種を蒔く回」と「収穫（修得）の実感を伴う回」のタイミングが各回で完結しない箇所があります。当日内の答えの照合をあせらずに、試行錯誤する時間を大事にしてください。過去2回分との関連学習60分、学習全体における今回の学びの位置づけの理解30分、その未消化領域の復習30分を目安に学習してください。

6. その他履修上の注意事項

経済行為の中には、「消費」「浪費」そして「投資」等がありますが、増やすことを前提にした行為は、「投資」です。この投資は、資金の運用行為ですが、その方法には様々なものがあります。この授業では、いろいろな投資方法、つまり代替的投資機会について考えていきますが、計算の方法に正解はあっても、経済行為に、唯一絶対の解答があるわけではないことを理解し、目的と条件設定によって最適解が異なる意味を、むしろ考えていただくことに重点があります。有用なものには、同時に限界もあります。

演習は、受講者相互の人間関係も重要です。楽しい雰囲気を作り、生涯の友も得るように努力してください。

7. 授業内容

【第1回】　授業の全体像の概観：演習Ⅰにおける到達地点の確認、学修の必要性
【第2回】　財務諸表の相互関連（資産と費用の関係、そして利益への影響）
【第3回】　財務諸表分析の限界と留意点
【第4回】　損益分岐点分析の学習2
【第5回】　安全性分析とキャッシュ・フロー計算書
【第6回】　その他の分析手法：各論
【第7回】　企業の選択と財務諸表の入手方法
【第8回】　財務諸表分析の実践（各自が選択した企業の分析と質疑応答）
【第9回】　財務諸表分析の実践（損益計算書を中心として）
【第10回】　財務諸表分析の実践（貸借対照表を中心として）
【第11回】　受講者による学修内容の要約とプレゼンテーション第1グループ
【第12回】　受講者による学修内容の要約とプレゼンテーション第2グループ
【第13回】　受講者による学修内容の要約とプレゼンテーション第3グループ
【第14回】　企業の経営管理活動の評価の総括
【第15回】　学修内容の要約